



沈みゆく夕日を観たとき、あそこ流行った歌を  
聴いたとき、畳の薫りを嗅いだとき……。  
ふとした瞬間「懐かしさ」を感じることがあります。  
なぜ私たちは「懐かしい」と感じるのでしょうか。  
そもそも「懐かしさ」とはなんなのでしょうか？

CSCD presents 知デリ in 豊中キャンパス アート&テクノロジー 知術研究プロジェクト

# 懐かしさの未来

2013年7月11日(木) 18:00 - 20:00 ※17:30 より開場・受付いたします

クワクボリョウタ (アーティスト/情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]准教授) × 輪島裕介 (大阪大学大学院文学研究科准教授)

大阪大学豊中キャンパス カルチエ(Quartier) [大阪大学全学教育推進機構 ステューデント・コモنز1F]

入場無料 / 50名程度(当日先着順)

主催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)

企画制作：知デリ学生スタッフ (佐々木啓・鈴木寛和・鳥居大嗣・中谷和生・松延徹人・米田千佐子)

CSCD ワーキングメンバー (小林傳司・神里達博・木ノ下智恵子・久保田テツ・辻田俊哉・山内保典)

お問い合わせ：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16 Tel=06-6850-6632 (平日 9:00-17:00)

Email=contact\_chideli@cscd.osaka-u.ac.jp URL=http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/



<https://ja-jp.facebook.com/chideli>



[https://twitter.com/cscd\\_chideli](https://twitter.com/cscd_chideli)



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY



CSCD  
CENTER FOR THE STUDY OF  
COMMUNICATION DESIGN



知デリ

沈みゆく夕日を観たとき、あそこ流行った歌を聴いたとき、暁の薫りを嗅いだとき……。ふとした瞬間、「懐かしさ」を感じることがあります。「懐かしさ」は私たちの支えとなる一方で、容易に誘導・操作されることもあります。なぜ私たちは「懐かしい」と感じるのでしょうか。本企画では、日用品と電子機器を組み合わせることにより、どこか新しくもノスタルジックな風景を作り出すアーティストのクワクポリョウタ氏と、演歌の周辺に作り上げられた“古き良き日本”イメージの正体を解き明かした音楽学研究者の輪島裕介氏をお招きし、「懐かしさ」の正体と新しい向き合い方を考えます。

## ゲストプロフィール

### クワクポリョウタ (アーティスト/情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授)

現代美術を学んだ後、98年に明和電機との共作「ビットマン」を制作し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション「10番目の感傷(点・線・面)」以降は、観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。その他の代表作に「ビデオバルブ」、「PLX」や、Sony CSLに開発参加した「ブロックジャム」、「ニコダマ」などがある。主な展覧会に『時間旅行展』(2003年、日本科学未来館)、『サイバーアジア』(同年、広島市現代美術館)、『オープンスペース』(2010年、NTT ICC)、『世界制作の方法』(2011年、国立国際美術館)、越後妻有アートトリエンナーレ(同年)など。2003年メディア芸術祭アート部門大賞。2010年同優秀賞。2011年芸術選奨新人賞。  
<http://www.vector-scan.com/>



### 輪島裕介/わじまゆうすけ (大阪大学大学院文学研究科准教授)

1974年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科修了。博士(文学)。専門はポピュラー音楽研究、民族音楽学、大衆文化史。1970年前後における「演歌」のジャンル化を論じた著書『創られた「日本の心」 神話—「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』(光文社新書、2010)で第33回サントリー学芸賞(芸術・文学部門)受賞。『季刊アルテス』(アルテスパブリッシング)に「カタコト歌謡の近代」連載中。



## 知デリ/アート&テクノロジー 知術研究プロジェクト

「知デリ」とは、科学技術・哲学・アートなど多分野の専門家で構成する大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)が主催する、大学と社会が連携して「知術」を人々に還元(デリバリー)するトークプログラムです。ここでは、さまざまな領域で活躍される方々と対話の機会を設け、各々の専門分野における「知識」や「技術」の横断・交換を通して、新しい発想の創出やアイデアの実現に繋げることを目指しています。2008年からは学生主体での企画を実施し、本プログラムに関して有志学生が企画しています。今回は大阪大学から新しい知をデリバリーする試みとして、大阪大学の豊中キャンパスを舞台に二年半ぶりの学内での対談企画を行います。



大阪大学豊中キャンパス カルチエ(Quartier)

560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16  
 大阪大学豊中キャンパス  
 全学教育推進機構 全学教育総合棟1  
 スチューデントcommons1F

阪急電車宝塚線「石橋駅」下車 東(石橋門) 徒歩約15分  
 大阪モノレール「柴原駅」下車 北西(正門) 徒歩約10分